



あなたの検査値
見方のポイント

がん・感染症センター 都立駒込病院
患者サポートセンター ♡ 臨床検査科

都立駒込病院

〈検査結果 基準値※〉

※基準値とはあくまでも目安の値で個人差があります。

右の表は、都立駒込病院で用いている基準値です。

あらかじめご了承ください。

項目	基準値	単位
アルブミン	3.8-5.2	g/dL
AST	10-40	U/L
ALT	5-40	U/L
γ-GTP	男：70 以下 女：30 以下	U/L
ALP	115-359	U/L
LDH	115-245	U/L
総ビリルビン	0.3-1.2	mg/dL
CK	男：62-287 女：45-163	U/L
CK-MB	0-25	U/L
尿素窒素 (UN)	8.0-22.0	mg/dL
クレアチニン (Cr)	男：0.61-1.04 女：0.47-0.79	mg/dL
尿酸 (UA)	男：3.7-7.0 女：2.5-7.0	mg/dL
AMY	37-125	U/L
AMY-P 型	21-64	U/L
血糖 (Gul)	70-109	mg/dL
グリコヘモグロビン	4.6-6.2	%
総コレステロール	150-219	mg/dL
中性脂肪	50-149	mg/dL
ナトリウム (Na)	136-147	mEq/L
クロール (Cl)	98-109	mEq/L
カリウム (K)	3.6-5.0	mEq/L
CRP	0.30 以下	mg/dL
白血球	3.7-8.3	10 ³ /μL
赤血球	男：425-540 女：385-490	10 ⁴ /μL
血小板	15.0-32.0	10 ⁴ /μL

○検査のデータを見ていく際には、まず各項目の意味、特性を理解することが重要です。

○疾患によって検査値が高値になるもの、低値になるものがあり、基準値とはあくまでも目安の値で個人差があります。

■肝機能の血液検査

アルブミン：肝臓で合成され、血清総蛋白の約60%を占めています。肝機能障害の他、全身の栄養状態を反映します。

AST・ALT：アミノ酸を作るのに必要な酵素です。この2つの酵素は肝臓にたくさん存在するため、肝臓の細胞がダメージを受けて壊れると血液中に漏れ、値が高くなります。

Γ-GTP：アルコールやお薬を摂取すると敏感に反応する酵素です。長期にわたり飲酒していると上昇しますが、禁酒によって低下します。

ALP：肝、骨、胎盤、小腸に由来する酵素です。肝胆道疾患、骨の病態をチェックします。

LDH：あらゆる組織に広く分布し、心疾患、肝疾患、悪性腫瘍、白血病などで上昇します。疾患の特異性は、あまりありません。

総ビリルビン：胆汁色素の主成分で、肝胆道疾患の診断に用いられます。ビリルビンが作られてから排泄されるまでの過程のどこかに障害があると、血液中のビリルビンが増加し、黄疸の症状がでます。

■心機能の血液検査

CK：骨格筋、心筋、脳、平滑筋など

広く分布し、高値の場合はこれらの臓器の障害を反映します。

CK-MB：心筋由来のCKを表します。心筋梗塞の早期診断に有用です。

■腎臓の血液検査

尿素窒素 (UN)：たんぱく質の最終分解産物です。血液中のUNは腎臓で排泄されるため、機能が低下すると血液中の値は増加します

クレアチニン (Cr)：筋肉の老廃物で腎臓で排泄されるため、腎臓の機能が低下すると血液中の値は増加します。

尿酸 (UA)：プリン体の最終代謝産物です。腎機能障害の他に痛風、関節炎などの診断に用いられます。

■膵臓の血液検査

Amy：膵臓と唾液腺に多い酵素です。膵疾患のスクリーニングと経過観察に使います。

Amy-P 型：膵臓由来のAmyです。膵疾患の診断に使います。

■糖尿病の血液検査

血糖 (Glu)：血液中のブドウ糖量です。一般に空腹時は低く、食後に上昇します。その他、運動、喫煙、ストレスなどによっても大きく変動します。医師に、何時ごろ食事したかをお知らせください。

グリコヘモグロビン (HbA1c)：赤血球の中にあるヘモグロビンの一部とブドウ糖が結合して、グリコヘモグロビンになります。一度作られると、その赤血球の寿命が尽きるまでの間、血液中に残っています。このため、血液中のグリコヘモグロビンの割合を調べることで、過去1~2ヶ月の血糖の状態を知ることができます。

■高脂血症の検査

コレステロール：体の細胞膜やホルモンを合成するのに、必要な成分です。食物から取り入れたり、肝臓や小腸で作られます。主な種類としてLDL型とHDL型があります。血液中のコレステロールの量が増加すると動脈硬化が起こり、様々な病気の原因となります。

中性脂肪：活動のエネルギー源です。使われず余った分は、皮下脂肪として蓄えられます。食後に血液中の値が上昇するため、食前に採血します。

■電解質

Na、Cl：水分、浸透圧の調節などに関与します。NaとClはほぼ並行して変動します。

K：浸透圧および酸塩基平衡に関与します。多くは細胞内に含まれ、腎不全などで高値になります。

■炎症マーカー

CRP：体内で炎症反応や組織の破壊が起きている時に血中に現れるタンパク質です。炎症性疾患で鋭敏に上昇し、病態の改善後速やかに低下するため、病態の診断、予後の判定、治療効果の観察に役立ちます。

■血球計数検査 (血算) とは

血液細胞の数を数え、その形態を観察する検査のことです。血液細胞は、主に赤血球系、白血球系、血小板系の3種類に分けられます。貧血と赤血球増多症の有無やその程度を知ることができます。

白血球：風邪を引いたり細菌に感染すると白血球は数を増やし、外敵から身を守ろうとします。その逆に、白血球が減ると免疫力が減少して感染しやすくなります。

赤血球：数が増えすぎると細い血管を詰まらせる原因になり、少なすぎると酸素が運ぶ量が減り、ふらついたり、息苦しくなります。

血小板：止血の働きがあるため、増えすぎると固まりやすくなり、細い血管を詰まらせる原因となります。また、減りすぎると出血が止まりにくくなります。

